

6. やさしい育成技術

ブレーキング 騎乗馴致～馴致8日目以降～

軽種馬育成調教センター 技術普及課 齋藤 昭浩

馬の手入れ・ロンジングの馴致から始まり、馬房内での騎乗馴致を順調にクリアしたパルル号。いよいよ本格的なトレーニングに移行するために必要な馴致も大詰めです。引き続き「人馬の安全」を考慮した方法について解説していきたいと思います。



パルル、ケン君そして前回から補助者として手伝ってくれているモッサン！お互いにコミュニケーションを取って実施しましょう。今回もBTCの研修で行っている競走馬の育成方法と研修生の指導方法や注意事項を踏まえて解説していきたいと思います。



「騎乗馴致 ～馴致8日目～」

教官：本日より、馬房内でローラーから鞍に変えて馬装しましょう。初めて鞍という馬具を装着しますがパルルにとっては、今までと同様「背中に乗せる物」という認識であるため、特に緊張して驚くようなことはありません。しかし、常に細心の注意を払って、進めることが大切です。

また、前回までドライビングを実施するときにローラーに通していたロングレインは鍔金に通して行いましょう。その際、両方の鍔金は紐で結びブラブラ動かないようにしましょう（**図1**）。クロスレインははらおびたっかく腹帯托革に通して使用します（**図2**）。



図1 鍔は紐や鍔革等で固定しておく



図2 鞍へのクロスレインの装着は托革を通す

ケン：はい、わかりました。今までの馬装は従順だからと言って過信することなく慎重に進めて行きたいと思います。

教官：その通りですね。では、馬装が出来たら補助者のモッサンと一緒にドライビングで円馬場まで行きロンジングをしましょう。実施時間は両手前で10分～15分間です。終了したら外に出て再びドライビングです。

ケン：教官！両手前とも、前進、減速、停止がとても簡単に実施できました。手前変換も日々楽にできました。声の反応と口向きが素晴らしいです。

教官：GOOD - JOB！パルル&ケン君！日々、パルルは学んでいるのですね。
それでは、補助者なしでドライビングしましょう。

ドライビングでは、完全に実施者が主導権を握るようになっていくが、まだ方向変換や減速が困難の場合はその都度、補助者に手伝ってもらえることが大切です。無理をせず馬が納得して理解することを心がけましょう。

教官：ドライビングの後は前日（67号参照）と同様に進め、完全にまたがり上体を起こして歩かせるところまで行います。大人しければ、きゅう舎周辺または円馬場周辺を補助者に曳いてもらい常歩を行います。モッさんは、常にパルルを安心させるためにどんな話しでも構わないので声をかけて一緒に歩いてくださいね（図3）。



図3 人が馬に絶えず声を掛けて

モッさん：OK！ボス。
パルル&ケン君！君たちが緊張しないように今日は僕がアイルランド研修でのおもしろ話でもしましょう！
僕達が3カ月の研修を終えてアイルランドから帰国する日、空港へ送ってくれるはずの人が寝坊をして飛行機に乗れなくなってしまったんだ！
ケン：本当に！？それでどうしたの？

モッさん：次の予約を取れた便までの4日間、レストランでご馳走してもらったり、買い物に行ったり、アイルランドを満喫させてもらったよ！

ケン：なんだ～！おもしろいというより、うらやましい話だなあー！それじゃあパルルも怒りますよ。

パルル：・・・プヒ、プヒ！・・・
・・・15分後・・・

教官：ハイ、どうやら無事に緊張することなく常歩が出来たことで、本日は終了です。馬房に戻って乗馬、下馬を2・3回繰り返して終わらしましょう。LOVERY JOB！



「騎乗馴致 ～馴致9・10日目」

教官：前日と同様に実施した後、騎乗できるようになったらクロスレインを外して手綱とアイリッシュマルタンガールを使用します（図4）。



図4 クロスレインから手綱に変えた馬装

ケン：アイリッシュマルタンガールというのは、どのような効果があるのですか？
教官：アイリッシュマルタンを日本では「めがね」という呼び方もしています。その役割は、騎乗者が落馬した際に手綱が馬の頭を越

さないために使用するのです。万が一、落馬して放馬した場合、手綱が馬の頭を越してしまうと馬の肢に絡まり、大きな事故につながるからです。馴致段階の馬に騎乗する場合、落馬する可能性が高いため特に気を付けなければなりません。最近、レースでも装着している競走馬をよく目にします。レースにおいてもいつ落馬するか分かりませんからね！

ケン：なるほど！馬の安全を確保するためですね。

教官：その通りです。それでは、騎乗に入りますが以下の注意点を必ず守るようにして下さい。



注意点

1. 鐙の長さは騎乗する前に合わせておく。
2. 腹帯の締め具合を騎乗する前に再度確認しておく。
3. 補助者に足を上げてもらい静かにまたがる。
4. 騎乗後は静かに鐙を浅くはき、馬体を締め付けない。
また、馬の肩等に足を当てない。
5. 常に声をかけ馬を安心させる。
6. 手綱は長めにブリッジで持ち、ネクストラップに指1本かけておく（**図5**）。



図5 危険防止のためネクストラップに指をかけておく

ケン：教官、質問があります。注意点の1～5については馬が驚かないように実施するという意味で理解できるのですが6の理由が分かりませんか？

教官：非常に良い質問ですね！6の理由は以下の通りです。

理由

1. 現段階での若馬は、ハンドル操作に対して完全ではない。馬を減速させようと手綱を引いた場合、怖がってパニックを起こし暴れる可能性があるため、手綱は長めに持ち、減速・停止は補助者に実施してもらう。
2. 馬が立ち上がった場合、ネクストラップに指をかけることで、落馬する可能性が低くなる。

教官：ネクストラップに指をかけることは、騎乗者の安全を確保するために必ず必要なことです。もし、馬が立ち上がって手綱を引き込んでしまった場合、馬と騎乗者は真後ろにひっくり返り非常に危険です。

この事故は、何度も見えていますし、よく聞きます。絶対に自分の技術を過信することなく実施してください。

ケン：分かりました！若馬だけでなく古馬に騎乗する際にも行います。



教官：その通りです。レースに出る馬でも時折、ネクストラップのみを装着している馬を見かけます。これらは、第一に落馬防止という理由ですが他にゲート発走時のジャンプアップに遅れないように持つ場合もあるようです。

ケン：なるほど！まるで、車のシートベルトみたいな役割ですね。

教官：まさに、シートベルトです。ヨーロッパではそのように言われています。

ケン：へえ～。それでは、以上の注意点に気をつけながら騎乗します。パルル大人しくしてね！

・・・・・・15分後・・・・・・

ケン：教官！パルルは最高です！最初から大人しく受け入れてくれました。ありがとう～パルル。

教官：GOOD JOB！パルル&ケン君。それでは、最後に乗馬、下馬を3回ほど繰り返して行ってから、終わらしましょう。大人しければ、今日はわざと少し雑に乗馬、下馬を行ってください。最終的には、1人で飛び乗っても大人しく駐立していられるようにしておくことが望ましいです。



「騎乗馴致 ～馴致11日目～」

教官：今日は、円馬場内で軽くロンジングした後、横乗り、騎乗を行い、良ければ常歩・速歩を行いましょう。常に声をかけることを忘れないでくださいね！

ケン：はい！まずは、ロンジングしよう。

・・・・・・10分後・・・・・・

ケン：教官！ロンジング終了の声をかけたらパルルが僕の所に近寄って来て僕のそばから離れようとしません。

教官：WELL DONE！ GOOD JOB！パルルはケン君のことをリーダーであると認めた結果です。素晴らしいことです！

ケン：ヤッター～！

教官：それでは、騎乗して運動しましょう。今日から、補助者のモッさんは円馬場の中央で追い鞭を持って待機して下さい（図6）。そしてパルルが戸惑って動かなくなったり、跳ねて暴れるようでしたら鞭と声を使って推進して下さい。ケン君は、パルルが動かなくなっても、慌てずモッさんに任せてください。脚を入れた瞬間にびっくりして暴れる可能性があります。また、パルルが少し慌てて走り出しても決して止める事無く、パルルの歩様に合わせて騎乗してください。そのうち、パルルは理解していくはずですよ。パルルのリーダーはケン君なのですから、自信を持って騎乗して下さい。

ケン：分かりました。

モッさん：OK！ボス。・・・ワタシノヤクメ、ケッコウ、セキニン、ジュウダイデスネ。

教官：そうです。ここでのステージではモッさんが主役です。パルルはケン君のことを気に掛けながらも、モッさんの動作・声に反応しますよ。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

11日目のパルルは、突然走り出したり止まったりすること無く従順に終わることができ、その後の円馬場内での手前変換も最初ぎこちなく行っていました。何度も繰り返すことで、容易に実施できました。



図6 補助者はいつでも馬を追える位置で待機

「騎乗馴致 ～ 馴致 1 2 日目」

教官：今日は前日同様の運動にあわせて駈歩を実施しましょう。両手前 2～3 周で良いのですが手前を正確に出すために、馬の頭を少し外側に向かせ外側の脚だけで行ってください。その場合は、脚の使用度を弱 中 強という順序で行うことが大切です。びっくりさせないように行ってくださいね。どうしても駈歩が出ない場合は、モッさんが追い鞭で推進してあげてください。

モッさん：OK ポス！

.....

常歩、速歩では人馬共に自信を持って実施することができ、駈歩の手前も問題なく実施できました。また、駈歩実施中にはパルルの首を愛撫しても動じることなく運動を行えました。

「騎乗馴致 ～ 馴致 1 3 日目」

教官：今日は前日同様の運動をリードホースとともに円馬場、角馬場等で騎乗しましょう（**図 7**）。気を付けなければならない点は、常にリードホースの後ろに位置して下さい。リードホースから外れたり、離されたりすると若馬は不安になり止まったり突然走り出すことがあります。馬は集団で行動する習性があることを忘れてはいけませんよ。



図 7 リードホースをつけての騎乗

ケン：分かりました。ある意味リードホースがハンドルやブレーキ代わりになるということですね。

教官：その通りです。パルルが騎乗者の扶助操作を的確に理解できるまでは、リードホースを十分に活用していくことが事故を未然に防ぐのです。

ケン：なるほど！それではパルルと楽しみながら運動してきます。モッさん！リードホースをお願いします。

モッさん：OK！

・・・その後のパルルは順調にトレーニングを進め、現在は B T C 調教場で励んでいる・・・

目指せ、日本一！そして世界へ挑戦だ！



補足

ブレーキングビットから一般に使用されるハミへの移行は、騎乗者の判断により騎乗できるようになった後に行う。

スタンディングマルタンガールからビブマルタンガールへの移行は、騎乗できるようになってから、馬が落ち着いた時点で騎乗者の判断により移行する。



「おわりに」

今号まで1年にわたって紹介させて頂いた馴致方法は、BTC研修で行っている方法です。その過程では馬の習性をよく理解し、馬の持っている潜在能力を遠回しさせないで開花させることが重要であり、信頼、いたわり、決断、忍耐、勇気、これら精神面での美点が馬にとって非常に大きな影響をおよぼすことを忘れてはなりません。「人馬の安全」を常に念頭に置き、「馬が人間を振り向く、人間を待つ馬」を作ることが大切であると思われます。

イラスト：山本智也（日高大洋牧場勤務：BTC養成研修第18期修了者）